

平成30年12月13日

各保健所・支所 保健課
各市町村 医療政策担当課
岡山県医師会
岡山県病院協会
岡山県看護協会

御中

岡山県保健福祉部医療推進課

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の愛称について

本県医療政策の推進及び ACP の普及につきましては、平素よりお世話になっております。

さて、厚生労働省医政局地域医療計画課より、ACP の愛称を「人生会議」とした旨の連絡及び修正版リーフレットの提供がありましたので、お知らせいたします。

なお、本県においては、従前より、「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」や、国の意思決定支援プログラム（E-FIELD）に沿って医師等が実施する意思決定支援を『ACP』と呼び、県民が元気なうちに“医師等の関与なく”家族等と話し合う取組については ACP という用語を使わない、という区別をしております。

一方、今回決定した愛称「人生会議」については、厚労省へ問い合わせたところ、元気なうちからの話し合いも含む、より幅広い用語として使用していただきたいとのことでしたので、念のため申し添えます。

記

1 送付書類

- ・ 厚生労働省医政局地域医療計画課からの事務連絡
- ・ ACP リーフレット（2種）
- ・ 参考資料「用語としての ACP（岡山県としての整理）」

2 留意事項

- ・ ACP リーフレットについては、白地のスペースに自治体名やロゴ、検索方法などを加えて使用できますが、本体の改変は不可とのことです。
- ・ 参考資料については、当課としての考え方を整理したものであり、各関係先における用語の使用方法について強制するものではありません。

岡山県保健福祉部

医療推進課疾病対策推進班 岩本

〒700-8570 岡山市北区内山下二丁目4-6

TEL 086-226-7321 / FAX 086-224-2313

E-mail masako_iwamoto@pref.okayama.lg.jp

事 務 連 絡
平成 30 年 12 月 5 日

各都道府県 衛生主管部（局）御中

厚生労働省医政局地域医療計画課

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の愛称を「人生会議」に決定しました

人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合う取り組み、「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」について、愛称を「人生会議」に決定しましたので、お知らせします。

ACP の愛称募集は8月13日から9月14日に実施したもので、応募総数1,073件の中から、愛称選定委員会により選定され、11月30日開催の愛称発表会にて公表しました。

また、11月30日（いい看取り・看取られ）を「人生会議の日」とし、人生の最終段階における医療・ケアについて考える日とします。「人生会議」及び「人生会議の日」は、今後、ACPの普及啓発に活用し、認知度の向上を図っていきたいと考えておりますので、貴職におかれましては、広報にご活用いただくとともに、貴管下の市町村（特別区を含む。）を始め、関係者関係団体等への周知方よろしくをお願いします。

なお、今回決定したのは「人生会議」という愛称のみであり、字体・ロゴ等デザインは今後厚生労働省で検討する予定としております。

記

1 選 定 愛 称：人生会議

選 定 理 由：

- ・意味が明確な単語の組み合わせにより、日常会話に浸透していくことが期待できる。
- ・家族等、信頼できる人たちと輪を囲んで話し合う、というイメージが湧く。

2 応 募 者：須藤 麻友さん 看護師（聖隷浜松病院）

3 参考 URL

ACP 愛称決定について詳しくはこちらをご覧ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02615.html

照会先

厚生労働省医政局地域医療計画課

在宅医療推進室 在宅看護専門官 猿渡

在宅医療係 田中・相山・染野

電話：03-5253-1111（内線：2662）

日経新聞 12.1 38面

終末期の治療方針

「人生会議」で話し合っ

終末期の患者が家族や医師と入念に話し合っ治療方針を決める「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」について厚生労働省は30日、「人生会議」という愛称で呼ぶことを決めた。公募に寄せられた約千件の案の中から専門家や放て家族や医師などと話し合

厚労省が愛称決定

いを重ねる過程を指す。欧米で普及し、患者が望む医療を実現できるとして厚労省は周知を目指しているが、一般的な認知度は低い。選定委員会の座長を務めた元NHKアナウンサー、内多勝康さん(55)は「『うちもそろそろ人生会議しよう』というように、日常会話になることを期待したい」と話した。

朝日新聞 37面

■「最期」への対話「人生会議」

望む医療やケアを最期まで受けられるように、家族や主治医と繰り返し話し合っ取り組みについて厚生労働省は30日、愛称を、「人生会議」とすると発表した。「いいみとり」の語呂に合わせ、11月30日を「人生会議の日」に決め、広報していく。8月から公募し、1073件の中から聖隷浜松病院看護師の須藤麻友さん(29)の「人生会議」を選んだ。

最期の治療どうする？話し合うのは「人生会議」愛称決定

11/30(金) 19:26配信

朝日新聞
DIGITAL



「人生会議」を応募した須藤麻友さん（左から3人目）と愛称選定委員会の委員ら＝東京・霞が関の厚生労働省

望む医療やケアを最期まで受けられるように、家族や主治医と繰り返し話し合っておく取り組みについて厚生労働省は30日、愛称を、「人生会議」とすると発表した。「いいみとり」の語呂に合わせ、11月30日を「人生会議の日」に決め、人生の最終段階の医療やケアを考える日として広報していく。

8月から公募し、1073件の中から聖隷浜松病院看護師の須藤麻友さん（29）の「人生会議」を選んだ。タレントの小藪千豊さんや放送作家の小山薫堂さんらが選定委員会を務めた。座長の元NHKアナウンサー内多勝康さんは「うちもそろそろ人生会議をやろうよ、という日常会話になることを期待しています」

小山さんは「家族とともに、残りの人生をどう豊かに過ごすか話し、ごく自然に『最期はこういう風に迎えたい』となっていく。そんな可能性を秘めた言葉だと感じた」と語った。

取り組みは「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」と呼ばれ、「患者の意思決定支援計画」などと訳されてきた。本人の希望に沿った医療やケアを選べる有効な手段として、厚労省が普及させようとしてきたが、知名度が低く、「名称がわかりにくい」などの課題があった。（阿部彰芳）

朝日新聞社

終末期話し合う「人生会議」を

11/30(金) 19:12配信



アドバンス・ケア・プランニング
の愛称「人生会議」を発表する須
藤麻友さん（中央）＝30日午後、
東京都千代田区

「人生会議」で最期の迎え方を話し合おう。終末期にどのような医療やケアを受けるか、事前に家族や医師らと繰り返し話し合う「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」という取り組みを普及させようと、厚生労働省は30日、愛称を「人生会議」に決め、公表した。

分かりやすい呼び名を付けることで、ACPを身近に感じてもらい、周囲との話し合いを促す狙い。厚生労働省は毎年11月30日を「人生会議の日」と定めたことも発表した。「いいみとり、いいみとられ」の意

味を込めた。

ACPの愛称は8～9月に公募した結果、1073件の応募があり、浜松市の看護師、須藤麻友さんの案が選ばれた。

時事ドットコムニュース > 社会 > ACP愛称「人生会議」に＝終末期に望む医療、話し合いを－厚労省



ACP愛称「人生会議」に＝終末期に望む医療、話し合いを－厚労省

2018年11月30日19時32分

乾癬治療は、今も進化を続けています。 乾癬治療の今を詳しく見る

人生の最終段階に本人が希望する医療やケアを受けられるよう、あらかじめ家族や医師らと繰り返し話し合う「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」の取り組みについて、厚生労働省は30日、愛称を「人生会議」とすることを決定した。また、「いいみとり・みとられ」の語呂合わせで、11月30日を「人生会議の日」と決めた。

厚労省は3月、終末期医療の指針を改訂し、ACPの考え方を盛り込んだ。しかし、ACPでは分かりにくいとの指摘があり、国民になじみやすい愛称を公募。タレントの小藪千豊さん、放送作家の小山薫堂さん、サントリーホールディングス社長の新浪剛史さんら8人の選定委員会が、1073件の応募作品から選んだ。

作品が採用された浜松市の看護師、須藤麻友さん（29）は、厚労省内で開かれた発表会で「日本中の方々が食卓の場など身近な場面でも話せるぐらい浸透してほしいという思いを強く持ち、人生会議とした」と話した。（2018/11/30-19:32）

[【社会記事一覧へ】](#) [【アクセスランキング】](#)



「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」の愛称「人生会議」を応募し、採用された須藤麻友さん（中央）＝30日午後、厚生労働省

人生の終わりまで、あなたは、どのように、過ごしたいですか？

もしものときのために

～自らが望む、人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ってみませんか～

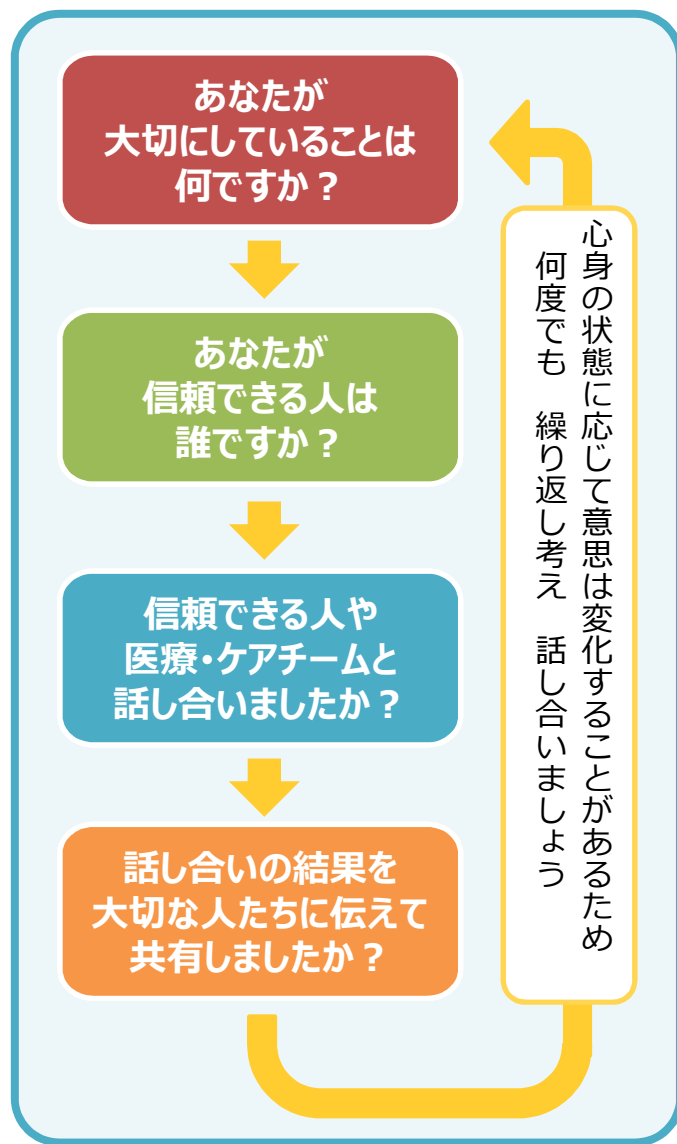
誰でも、いつでも、
命に関わる大きな病気やケガをする
可能性があります。

命の危険が迫った状態になると、
約70%の方が、
医療やケアなどを自分で決めたり
望みを人に伝えたりすることが、
できなくなると言われています。

自らが希望する医療やケアを受けるために
大切にしていることや望んでいること、
どこでどのような医療やケアを望むかを
自分自身で前もって考え、
周囲の信頼する人たちと話し合い、
共有することが重要です。



話し合いの進めかた（例）



もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、
前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組を
「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」
と呼びます。

あなたの心身の状態に応じて、かかりつけ医等からあなたや
家族等へ適切な情報の提供と説明がなされることが重要です。

このような取組は、個人の主体的な
行いによって考え、進めるものです。
知りたくない、考えたくない方への
十分な配慮が必要です。



詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/saisyuu_iryuu/index.html



人生の終わりまで、あなたは、どのように、過ごしたいですか？

もしものときのために

～自らが望む、人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ってみませんか～

誰でも、いつでも、
命に関わる大きな病気やケガをする
可能性があります。

命の危険が迫った状態になると、
約70%の方が、
医療やケアなどを自分で決めたり
望みを人に伝えたりすることが、
できなくなると言われています。

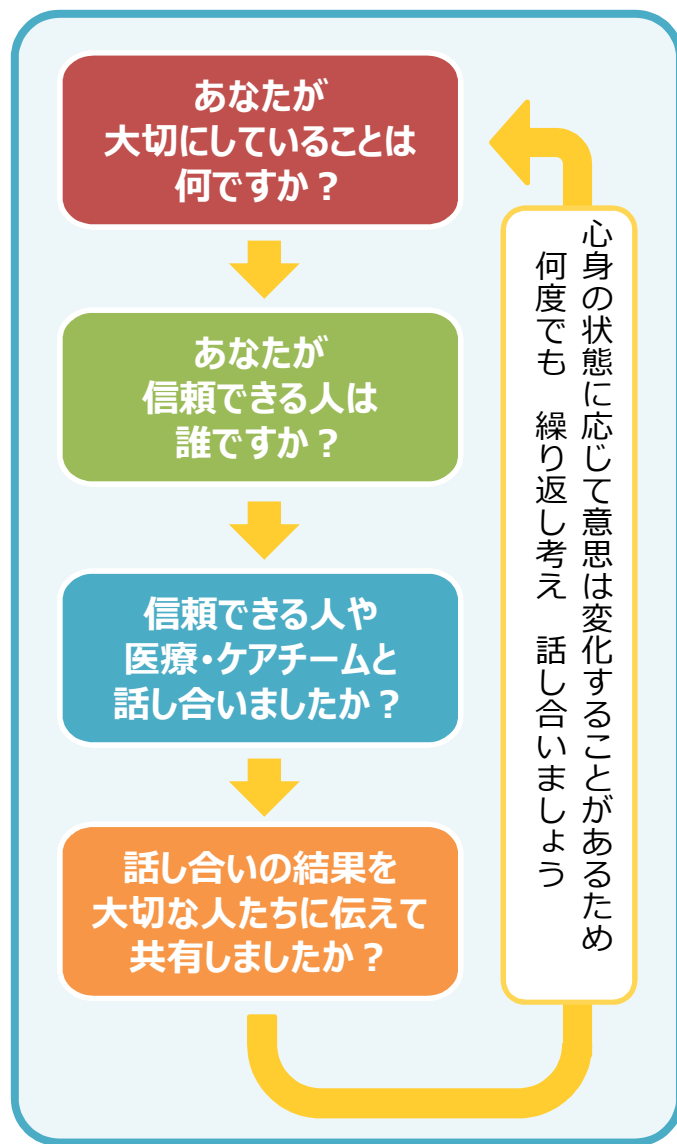
自らが希望する医療やケアを受けるために
大切にしていることや望んでいること、
どこでどのような医療やケアを望むかを
自分自身で前もって考え、
周囲の信頼する人たちと話し合い、
共有することが重要です。



もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、
前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組を
「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」
と呼びます。

あなたの心身の状態に応じて、かかりつけ医等からあなたや
家族等へ適切な情報の提供と説明がなされることが重要です。

話し合いの進めかた（例）



このような取組は、個人の主体的な
行いによって考え、進めるものです。
知りたくない、考えたくない方への
十分な配慮が必要です。



詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/saisyuu_iryuu/index.html



作成例

ロゴ
等

都道府県 市区町村 名

QRや検索
ワード等

用語としての「ACP」（岡山県における当面の施策上の整理）

平成30年12月

本人の 状態	 健康	病気 終末期 
	もしもの時の過ごし方について 考え、家族等と思いを共有する	医療従事者と本人が話し合い、 医療・ケアの方針を決める 医療従事者と家族等が 本人の意思を推定し、 医療・ケアの方針を決める 本人の意思確認 ができないとき
岡山県 としての 整理	「もしものための話し合い」等 （ACPとは区別） すべての県民が対象。治療・療養に関する希望だけでなく、自分の生き方に対する価値観なども周囲と共有することを重視。	「ACP」 （本来の意味としてのACP） 「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」やE-FIELD等に則り、医療・介護関係者が主体となって実施するもの。
木澤教授 E-FIELD	「健康人に対するACP」	「病気を持った人に対するACP」
厚労省 愛称	「人生会議」 医療介護関係者によるACPを含む、これからの話し合い全般の愛称（「ACP」と「人生会議」は完全一致しない）※	

※厚労省地域医療計画課 在宅医療係に聞き取りしたもの